

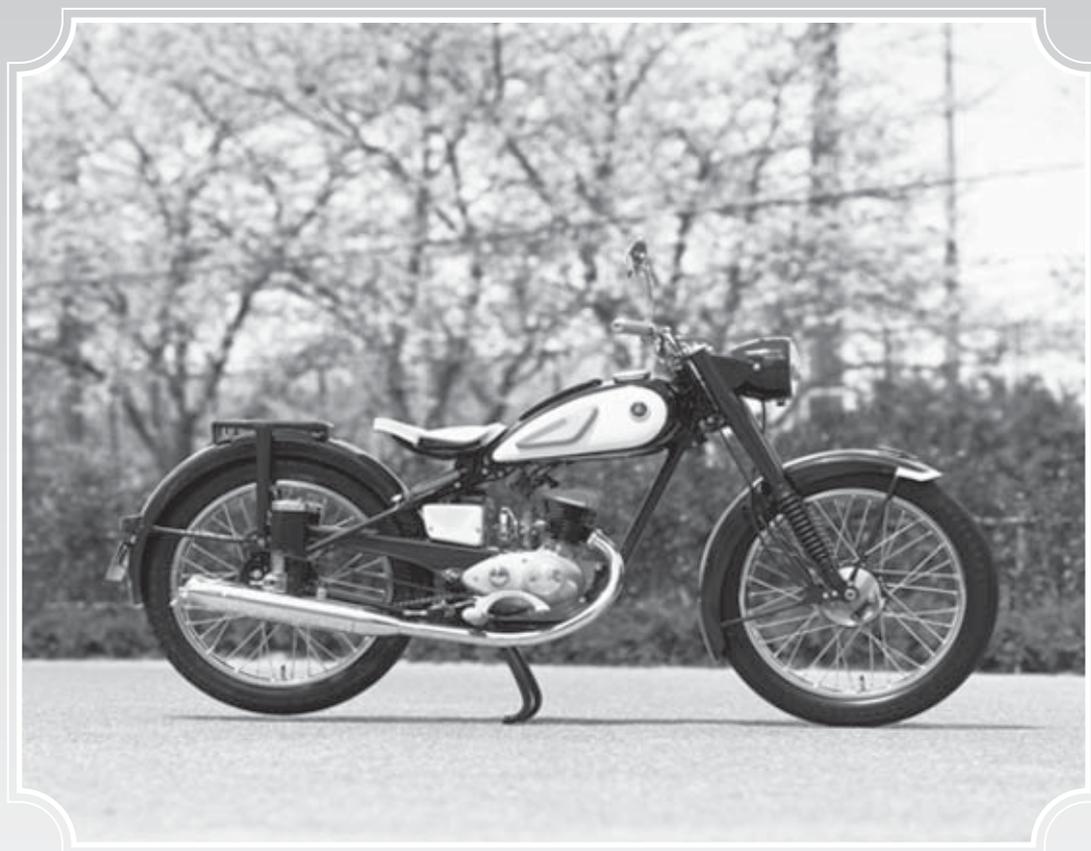
中部品質管理協会会報

第7号

Central Japan Quality Control Association

2013.1発行

「モノづくりは、人づくり」



1955年製のヤマハ発動機「YA-1」（愛称：赤とんぼ）

写真提供：ヤマハ発動機株式会社 <写真説明文>表紙裏

◆内容◆

- 1 年頭挨拶 中部品質管理協会会長 好川純一
- 2 我が社のQC活動 ～大同メタル工業(株)～
- 3 協会だより（管理者・スタッフ大会、品質コラム）

新年のご挨拶

～持続的な成長を目指して～

中部品質管理協会 会長

好川 純一



新年あけましておめでとうございます。

旧年中は、中部品質管理協会へのご支援を賜りまして厚く御礼申し上げます。

昨年を振り返ってみますと、円高などの影響による景気低迷が続き、日本再生のシナリオが依然として描けない状況となっています。さらに、グローバルな大競争時代の中で、多くの企業が業績不振に陥るなど、企業を取り巻く環境はますます厳しさを増してきました。

一方で、このような困難な局面にもかかわらず、成長している企業が数多く存在していることも事実です。こうした企業はなぜ成長できるのか？その共通点を調べてみますと、次の2点に集約できます。

一つは、成長している企業が提供しているモノ・サービスには、お客様の期待に応える新たな価値が必ず含まれています。ワクワクする商品、心温まるサービス、など独自のアイデアを活かした価値の創造（**価値創造**）です。もう一つは生み出した価値を、お客様に対して保証し続けること（**品質保証**）です。生産や販売・サービスの現場には、絶えず「ばらつき」や「変化」が発生しています。常に現地現物で、工程で品質を作り込むことを通し、**品質の確保と保証**を続けなければなりません。

2004年にデミング賞本賞を受賞された故高橋朗氏（元（株）デンソー会長）は、受賞記念講演で次のような提案をされました。

『企業活動の原点は顧客創造です。顧客創造のためには新たな顧客価値の創造とその顧客価値を損なわない創造的保証活動が必要です。それらを総合して質創造と云おうという提案です。』

中部品質管理協会では、“**質創造**”の**実践**を企業の目指すべき姿として、これからも「世界をリードする中部のモノづくりへの貢献」という創業の精神を受け継いで参ります。

また**企業の持続的な成長**を目指して、皆さまの視点に立って、自己変革しサービスの創出に励む所存です。

本年もご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

表紙写真の説明

ヤマハ発動機の製品第1号「YA-1」。オートバイでは、黒一色で重厚なデザインが常識だった当時、「栗毛の駿馬」をイメージしたエンジとクリーム色のツートンカラーは斬新で、そのスリムな車体、ハンドリングの良さなどから「赤トンボ」の愛称で呼ばれた。1955年7月の第3回富士登山レースと同年11月の第1回浅間高原レースでは上位を独占し、性能の高さをアピールした。この国内2大レースを制したヤマハ発動機と「YA-1」の名は、一気に全国のモーターサイクルファンの知るところとなった。

以来、ヤマハ発動機は、世界の一級品をつくろうとする姿勢を貫き、二輪車をはじめとしてマリナー製品、自動車用エンジン、産業用ロボット、電動アシスト自転車など、事業の多軸化とグローバル化を推進しながら、世界の人々への新たな感動と豊かな生活の提供に取り組んでいる。

《シリーズ》我が社のQC活動～ 大同メタル工業株式会社

1.会社概要

私たち大同メタル工業(株)は、1939年(昭和14年)に名古屋において操業を開始して以来、73年目を迎え、現在は海外14カ国に18拠点を有するグローバル企業に成長しました。

自動車用、船用エンジン軸受を中心に多種多様な産業分野の回転を支える世界で唯一の「総合すべり軸受メーカー」として、また世界のトライボロジー(摩擦・摩耗・潤滑)リーダーとして、常にトップレベルの魅力ある製品を提供することで、世界中のお取引先から信頼できるビジネスパートナーとしての評価を頂いております。

本稿では、海外の生産拠点を含めた、主に製造品質の維持向上活動をご紹介します。

2.代表的な製造品質維持向上活動

弊社の代表的な製造品質維持向上活動は、日本の大同メタル工業(株)品質企画室を中心に、以下の様な多面的な活動を行っております。

- ①各製造拠点に対する品質システム監査
- ②“お客様目線”での社内自主監査
- ③「大同メタルカレッジ」での技術・技能の伝承
(日本及び海外関係会社からも参加)
- ④国内担当工場での海外研修生の継続的受け入れ
- ⑤「NEW-QCサークル活動」

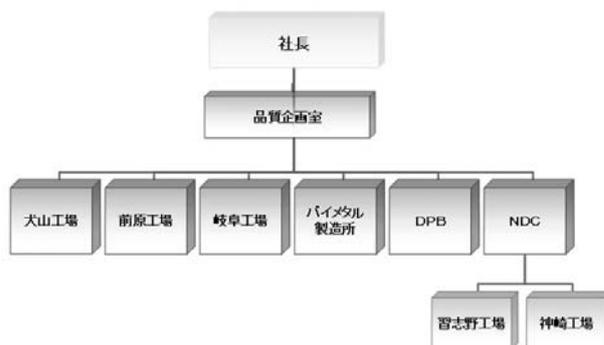
2012年度は『品質改革元年』として、いくつかの新しい活動を展開いたしました。その一つとして、QCサークル活動を全面的に見直し、“NEW-QCサークル活動”として、心機一転、全テーマを品質改善に絞り、徹底した品質向上活動としました。

3.NEW-QCサークル活動

弊社のQCサークル活動は、1970年代に始まりました。国内におきましては、2012年に一部で多くなっておりました活動構成メンバー数を見直して、1サークルあたり10名までとし、現在、各サークルとも年間3テーマ完遂に取り組んでおります。活動組織は各部署・拠点によって異なり、独自性を許可していますが、リーダー、アドバイザー、ブロック長等、それぞれの役割と共に、職制も参画し、より効果を上げるために一体となって活動しています。活動全体は、品質企画室が統括し、方向付けを行っております。

毎年12月に全世界の生産拠点、及び関係協力会社が参加し、大同グループを挙げて活動を推進しております“DQCサークル大会”は、2012年で27回目となりましたが、2012年も大会委員長に判治会長、副委員長は櫻山社長が務め、無事終了いたしました。

NEW-QCサークル活動組織図



第27回DQCサークル大会 大同メタル ロシア発表中



4.NEW-QCサークル活動の効果

『品質改革元年』として始めた活動は、一人ひとりの、プライド・情熱・忍耐力にも呼びかけて進めています。結果として、高い品質向上効果を実感しています。

本当に高いプライドは、人を地道に努力させると言われています。弊社は、これからも、QCサークル活動を品質向上のため、及び、次世代を担う人材の育成、良いひとづくりの活動と位置づけ、トップをはじめ全社員で取り組んでいきます。(担当:大西緑)

3月1日 中部品質大会 管理者・スタッフ改善事例大会開催！

2013年3月1日に、名古屋駅前の「ウインクあいち」で開催します。

内容は①当地区優良事例7件の発表

②記念講演：広島大学大学院精神神経医科学 教授 山脇成人氏
(H24年文部科学大臣賞受賞)

テーマ「現代社会を襲う うつ病を科学する～脳機能を科学的に解明」

いずれも最新の実践における科学的・論理的アプローチの数々。ぜひ、御参加下さい。

H25年度、日本規格協会名古屋支部との連携事業がはじまります！

日本のものづくりの拠点として、大きな位置を占めるここ中部の企業様により深く、より「品質」を戦略として浸透いただき、より高く発展いただくために、これから連携をはかってゆきます。まずは「品質管理ベーシックコース」を「品質管理総合セミナー」(6月開講)として合同開催します。乞うご期待下さい。

furuyaの品質SAIKOU

「マネジメントとは何か？」多くの経営者や管理者にとって、これは決して簡単な問い掛けではない。日本にマネジメントの概念が持ち込まれたのは、戦後のGHQによると言われている。その中の一人に有名なデミング博士がいた。戦後日本の高度経済成長を支えたのが、米国からもたらされたマネジメントの理解と実践であり、こうした努力が日本の品質を高めて、今日の繁栄につながったのである。

反面、日本製品の品質が際立って良くなったために、大量生産の時代を経ていつの間にか、「品質(Quality)＝製品品質」というイメージが定着してしまった。そして「品質管理(QC)」は製造業の事、生産現場の事となってしまったのである。もともとはマネジメントをしっかりとやることで、品質が良くなるということだった。米国で1980年代に創設されたマルコム・ボルドリッジ賞では、Qualityはあらゆる質を意味しており、製造業はもちろんのことサービス業、中小企業、教育、医療など、幅広い分野の組織がマネジメントを充実させたことで、米国の競争力回復の原動力となっていった。

企業の目指すべき姿である“質創造”(価値創造+品質保証)の実践こそが、これからの企業経営、組織運営に求められている。新年を迎え、“質創造”のためのマネジメントを多くの企業、組織が理解、実践されて、持続的な成長を図っていかれることを祈念したい。

【編集後記】 お正月はなぜおめでたいのでしょうか？「祥福」「瑞兆」「福俵」「賀祝」「有慶」等々、用いられる季語はめでたい言葉であふれてますが、元来おめでたいのでなく、これらの言葉を並べて祝うことで、心新たにし、福を呼び込むということだそう。

であれば、この新年は思い切り祝詞を述べて、福を呼び込むことからはじめよう☆

(発行元)

中部品質管理協会

〒450-0001 名古屋市中村区那古野1丁目47-1 名古屋国際センタービル11階

TEL (052) 581-9841 FAX (052) 565-1205

<http://www.cjqca.com>